

平成23年度(2011年度)第3回 とよなか都市創造研究所運営委員会
議事要旨

日時 : 平成24年(2012年)2月9日(木) 14時00分～16時00分
場所 : くらしかん3階 会議室
出席委員 : 新川委員長, 赤尾委員, 池本委員, 伴野委員, 江口委員, 本荘委員
事務局 : 久野, 岩佐, 村山, 大床, 仲谷
傍聴 : 0人

○開会

○所長挨拶

○案件(1)平成23年度調査研究の結果について

資料 : 資料1「とよなかのすがた」(数値から見た豊中市の現状把握)

資料2「豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究」

資料3「若年層(高校生)の地域活動推進の要件と地域コミュニティの考察(Ⅲ)」

事務局から資料に基づき説明

<「とよなかのすがた」(数値から見た豊中市の現状把握)について>

委員

- ・見やすい表現になっているが、データの読み方について解説などはないのか。データを読み慣れない人にはわかりにくいと思う。トピックごとに読み方が変わる点も気になる。

事務局

- ・基礎編は基本的なデータ集であり、あえて解説を入れなかった。読者の解釈に委ねる。トピック編は各課で書いてもらっており、各課のアピールや公開済みのデータをまとめたため、方向性がまちまちになっている。

委員

- ・既に公表されているデータを再掲するなら、まとめ方に研究所としての特色を出せるといい。市民目線を入れ、市民が見たいデータ(学力調査の数値など)を載せるなど検討してほしい。

<豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究について>

委員

- ・グルメなど、一過性の魅力に焦点をあてているようだ。歴史的文化資産などの検討も必要。将来的に文化芸術に係る支援が求められているのではないかと、という仮説は賛同できる。ただ、内容はもっと深く掘り下げられるのではないかと。

事務局

- ・調査研究初年度として、横断的な情報収集と分析に集中した。また、ブランド創出には、現状の魅力を活かすことと、魅力を新たに創造することの二側面があるため、そのどちらの方向に掘り下げるのか、時系列的なことも含めて考えていきたい。

委員

- ・本年度の目的は課題抽出であったと理解している。今後、ブランド創出の考え方の整理を行っていくことに期待したい。
- ・豊中は郊外住宅都市なので、住みたい町という視点からブランドイメージを探してほしい。

<「若年層（高校生）の地域活動推進の要件と地域コミュニティの考察」について>

委員

- ・高校と地域の交流窓口を作るという結論が出たことは評価できる。が、窓口を作ればそれだけでいいというわけではない。実際に連携が進むのは個別のプロジェクトや人によるところが大きい。人的ネットワークを支える仕組みが必要。

○案件（２）平成２４年度事業計画（案）について

資料：資料４「平成２４年度事業計画（案）」

事務局から資料に基づき説明

事務局

- ・沖縄市から、都市間交流について共同研究の提案があった。職員派遣があるかもしれない。今も豊中まつりなどの交流はあるが、現状の見直しも含めて検討していく。

委員

- ・平成２４年度の研究で、職員が参加することはあるのか。

事務局

- ・少子高齢化については、関連セクションと共同で行うことも考えている。

委員

- ・交流人口の研究はどのように進めて行く予定か。

事務局

- ・地区ごとに事情が違うので、地区ごとに進める。定住人口は高齢化して減少していく。外部から来てもらえることを考えていきたい。

○案件（３）連各事項等

- ・次年度第１回運営委員会は、５月連休明け頃に開催したい。
- ・今年度の報告書は３月末に発行予定。

○閉会